

地域が教材・学生が育つ場



長岡造形大学

豊口 協 学長に聞く

長岡造形大学は、県立近代美術館の西北に向かい合った位置にたつ。巨大な翼の断面を思わせるユニークなアトリエ棟が、この大学を象徴的に表している。一九九四年に開学して、この春最初の卒業生を出し、大学院も開設した。

世界初のデザインだけの専門大学で次の学部、学科と六コースをもつ。専任教員、三六人、学生一〇〇〇人。

(コース)

産業デザイン学科―工業デザイン

工芸

テキスタイル

造形学部

視覚

環境デザイン学科―空間デザイン

環境保存

新しい学問を創造する大学

造形大は、「公設民営」の学校です。長岡市と新潟県が八十九億円を拠出し、運営は民間（学校法人）が行うという全国でも、まれの新しい方式です。十二万平方メートルのキャンパスと校舎自体が教材にもなっています。例えば学長室の机、椅子も近代デザインの画期をなしたものです。

従来は美術の一分野とみられたデザインという専門領域を、人文科学、自然科学、社会科学の融合体としてとらえ、新しい学問体系をベースに、人間を軸にしたデザイン学の創出を求めています。従って教育課程も極めてユニークです。後で述べます「地域プロゼクト演習」（三年次）等を参考にしてください。

学生は県内から約五〇％、他は北海道から沖縄までの出身です。この比率は新潟大、長岡技術大に似ています。女性は一四〇％、社会人だった学生が九人、外国人学生は三人です。

専任教員の平均年齢は四十四・六歳（開学当時）という若さで、実際にデザイン事務所を開いたり、企業で活躍したなどの現場体験者が多く、しかも国際的な

ネットワークを持っている方も少なくないのです。

図書館、食堂を市民に開放しており、年間、約千人もの視察・見学があります。学内に「デザイン研究開発センター」を設置して、自治体や企業の受託研究もしています。

地域全体を視野にいれたデザインを

デザインは、人とモノとの関係から始まり、美しさ使い易さ、心地よさといったカタチや機能を追求してきました。時代と社会構造が変化して、デザインに求められる役割も大きく変わってきました。モノを創る上で、人とモノとの関係だけでなく、モノとモノ、モノと環境との関係までが重要な意味をもつようになってきたからです。

例えばバスをみても、老人や障害をもつ人にとっての「安全と快適」が求められています。自然破壊や環境破壊に対するエコロジー（生態学）の提言も、人と環境、モノと環境との関係の見直しが痛感させられます。その新しい発想と技術に「カタチ」を与えて、心豊かな生活を実現するための思想が世界の共通語としてのデザインです。地球全体を視野にいれた人間社会



を作るためのデザインマインドが求められます。

こうした時代や社会が求めるデザインを提案できるデザイナーを育てよう—これがわが大学の目標です。

感性を育てる長岡の自然

総合的な科学であるデザインには感性が重要です。かつての人間工学ではそれが希薄でした。感性とは、美しい現象や物をみたととき、素直に美しいと感動する心、汚れた物や状況に出会うと、それをきれいにしようという行動に出る心の動きとしましょう。

数年前に体験したのですが、都庁舎の展望台で母親が、「夕焼けよ」。小学生の子どもが「お母さん、今日は空気の汚染がひどいね。この赤の色は屈折率でいうと・・・」「まあすごい、あなたそんなことまで知っているの。お母さん、うれしい」

こういう状況では感性は育ちません。その点長岡にはまだ三六〇度見える空や緑があります。すぐ近くを流れる信濃川は魚が生き、多くの鳥が飛んでいます。春になりおたまじゃくしが、足を生やし、尾がとれて陸にあがります。小さな子どもはそれを見て命の誕生を知るのです。感性とは、命の尊さと生きることの歓

びを知ることでもありません。

長岡ではバスから降りるとき、小・中学生は「ありがとうございますございました」といいます。大都会ではもう失われています。同じく「お早よう」の言葉が家庭から奪われていますか。通勤地獄や長時間過密労働の都会生活が、それらを不要にしまったのですが、国際化した今日の世界には大切なテーマなのに。

地域プロジェクト演習で

三年次になるまでは専門の垣根を作らず、学部をオープンにして科目が自由に選択できるようにしています。三年次からは自分の専門コースに入り、大きなプロジェクト学習を体験します。各学科の学生は一〇人くらいのグループになり、各専門性によって一つのプロジェクトに参加します。次がその一例です。

テーマは長岡市のバスの新交通システム。環境デザインの学生は長岡市の住民の生活や動きを調査し、バスの運行経路・運行時間、バス停の位置を計画し、それぞれの空間に合ったバス停のデザインをします。工業デザインの学生は用途や時間帯に応じたバスのデザインヲ提案。視覚デザインの学生はバス停のサインを



工芸デザインの学生はバスのベンチのデザインを、テキスタイルの学生はバスのインテリアをという具合に担当して、最後にコーディネーターをそれらを取りまとめます。

コーディネーターには、各分野に通じた知識と新しいものを生み出す総合企画力が要求されます。この種のコーディネーターは他の大学では育成していません。縦割りの講座制をやめ学科の垣根を取り払った本校の教育課程だから育成できるのです。また、こうして出来た地域プロジェクト演習の結果は地域に還元します。市のバス交通新システムの作品モデルは、市役所ホールに展示し、市民から反響がありました。

学生は市民の一員として

体育実技の授業はありません。水曜日の午後と土曜日をあけておき、好きなスポーツをやってもらいます。大学にはテニスコート、サッカーグラウンド、室内体育館などがありますが、キャンパスの近くには市民の体育施設もたくさんあり、それも利用します。卒業後もつづけられるスポーツを身につければ幸いです。

学生寮はあえて作りませんでした。市民の一人とし

て暮らしてほしいからです。「全国各地からきた学生の親代わりになって、ときには厳しく叱ってもらいたい。青春の多感な時代を過ごした長岡はすばらしい街だったと、彼らが言葉に出して語れるような四年間にしてほしい」と商工会議所での講演会でお願いしました。

私も市民になっていきますし、大多数の教員もそうなっています。地域に開かれた大学に到る一つの努力です。専門性で地域に貢献しようということで、例えば長岡市の都市計画など提言しています。既に長岡空襲の犠牲者を記念する二年前に出来た公園は、本学の教授がデザインしました。

(文責・吉田武雄)

